

# ハーモニーひろば

男女共同参画社会を目指して

2016  
Vol. 69

それぞれの男女共同参画 /

## チャレンジストーリー

**個人**  
の  
取り組み

**p.2**  
昔ながらの酒造りを、  
後世につないでいきたい。  
稲葉酒造  
代表兼杜氏 稲葉伸子さん

**事業所**  
の  
取り組み

**p.3**  
多様な勤務形態で、  
誰もが働きやすい  
環境づくり。  
医療法人 蔦会  
アイビークリニック  
看護部長 廣木とよ子さん

**団体**  
の  
取り組み

**p.3**  
女性が輝く社会づくりの  
活動を支援しています。  
特定非営利活動法人  
ひと・まちなっとわーく  
理事長 池田馨さん・事務局 綿引均さん

**p.4**  
情報広場

平成27年度  
ハーモニートップセミナー  
p.4



## 男女共同参画推進月間特集

### 平成27年度「ハーモニー功労賞」受賞者の皆さん

県では、職場や地域、家庭などにおける男女共同参画への関心と理解を深め、様々な活動が積極的に行われるよう、県男女共同参画推進条例に基づき、毎年11月を男女共同参画推進月間と定めています。今年度は11月6日(金)に、男女共同参画の推進に功績のあった個人・団体・事業所の方々にお贈りする「ハーモニー功労賞」の表彰式を開催しました。



### 個人の部



稲葉 伸子さん  
稲葉酒造  
(つくば市)

県内でただ一人の女性杜氏である。日本の伝統や文化、そして家業の酒造りを後世に伝えたいと、企業を退職し日本酒造りを継承した。また、酒造場をギャラリーなどに変え、人々の集う場として提供、地域に貢献している。



片岡 安祐美さん  
茨城ゴールデン  
ゴールズ  
(稲敷市)

社会人チーム初の女性監督である。また、昨年全日本クラブ野球選手権において、大会史上初の女性の優勝監督となる。チームの活動拠点である稲敷市のふるさと大使として、積極的に地域貢献に努めている。



佐藤 三恵子さん  
助産師  
(結城市)

新生児訪問指導や両親学級、看護専門学校での非常勤講師を担当するとともに、助産師間のワークシェアリングができるような調整や、県西地区の助産師の復職支援にも取り組んでいる。県全体で産婦人科医が少ないなか、助産師として精力的に地域へ貢献している。



ろ舟保存会  
会長  
石津 晴雄さん  
(潮来市)

娘船頭を育成し、現在9名の娘船頭が手漕ぎの船を操りながら観光案内を行ったりして、観光客のおもてなしを行い、潮来のイメージアップに大きく貢献している。また、あやめまつり期間外には、観光キャンペーンにも従事し、「水郷潮来あやめ娘」とともに観光PRやイベント会場で広報活動など、多方面で活躍している。

### 事業所の部



医療法人 蔦会  
アイビークリニック  
理事長  
井上 宏司さん  
(ひたちなか市)

県内医療法人として初めて平成26年12月「くるみん」の認定を得る。地域の子供の施設見学、インターンシップの受け入れのほか、ワークライフバランスなど、職場環境整備などに病院全体で取り組んでいる。



三桜工業株式会社  
古河事業所  
代表取締役社長  
篠原 利幸さん  
(古河市)

事業所敷地内に保育施設「さくらんぼ」を設置し、育休明けからの職場復帰を支援している。ワーク・ライフ・バランスの視点からの業務の効率化に向けた部門横断プロジェクトを発足するなど、女性が活躍するための職場づくりを積極的に推進している。



株式会社 常陽銀行  
取締役頭取  
寺門 一義さん  
(水戸市)

平成25年度から、県と「地域経済活性化に関する包括連携協定」により女性の活躍を支援している。「輝く女性の活躍を加速する地銀頭取の会」に参加し、行動宣言も行った。今年度は、女性活躍支援に向けたワークライフバランス推進施策を策定するなど、女性が働きやすい職場づくりを積極的に推進している。



筑波乳業株式会社  
代表取締役社長  
梅澤 弘さん  
(石岡市)

家庭と仕事の両立を支援する諸制度の設立・運用を推進し、女性社員の育児休業取得率・復職率は100%である。平成26年には「くるみん」の認定を県内食品製造業として初めて得る。管理・監督職に女性を登用するなど、女性の活躍に積極的に取り組んでいる。

# Challenge Story



Let's

challenge!



個人・団体・事業所の皆さんのチャレンジストーリーをご紹介します。  
それぞれの活動を参考に、男女共同参画社会を広げる活動を、  
皆さんも始めてみませんか。



酒造りの一つひとつの  
工程を五感を駆使して  
取り組んでいます



稲葉酒造  
代表兼杜氏 稲葉伸子さん

## 個人の取り組み

チャレンジストーリー ①  
昔ながらの酒造りを、  
後世につないでいきたい。

稲葉さんは、茨城県でただ一人の女性杜氏です。杜氏になったいきさつは、「蔵元に生まれたのですが、全く違う仕事に就いて、就職先は女性が活躍できる職場でしたのでやりがいがあり、結婚して子どもを二人生んでも仕事を続けていきました。でも、いつも頭の片隅には酒蔵をどうしよう、酒蔵を継ぐのは私しかないという思いがありました」と稲葉さん。30歳ぐらいからその思いが強くなり、「お父さんを助けてあげたら」という夫のひとことで酒蔵を継ぐことを決心。しかし、「酒造りは女にできる仕事ではない」と父親に反対されます。それでも稲葉さん

は、昔ながらの手作業にこだわった酒造りを後世につないでいきたいという強い意思で、蔵人として修行を始めました。「最初はそれまでと違って、季節を感じられる仕事が嬉しかったのですが、酒蔵での作業は冬になると体が芯まで冷えきってしまい大変でした。また、重い水や米を運んだりするので重労働でした。そこで自分でできるようにすべてを小型化し、一回で無理なら二回に分ければいいと仕組みを変えていきました」と修行当初を振り返ります。杜氏になった今の思いは、「日本の伝統の酒造りを後世に伝えていくなかで、私に関わるのはほんの何十年かですが、それができて本当によかったと思います。今後は、酒造りを継承する若い人材の育成にも取り組んでいきたいです」ということでした。





## 団体の取り組み



### チャレンジストーリー② 女性が輝く社会づくりの活動を支援しています。

ひと・まちなつとわーくは、社会教育の推進、まちづくりの推進、男女共同参画社会づくり活動、子どもの健全育成の4つを柱に事業を展開しています。会員は140名、さらにボランティアスタッフを加わり事業をサポートしています。男女共同参画社会づくりに関しては、「思いやりのある社会は、『女・男』が輝く社会づくりから」をテーマに、講演会・講座・セミナーの開催や、各種事業



特定非営利活動法人 ひと・まちなつとわーく  
理事長 池田馨さん・事務局 綿引均さん(右から)

人づくり、まちづくりで、  
男性も女性も輝く  
社会にしていきたい

への協力支援・講師の派遣を行っています。今年度は、茨城県が実施する女性活躍推進企画提案支援事業の委託を受け、男女共同参画社会づくり活動のメイン事業として取り組みました。「女性が社会で活躍するためにはどういう仕組みが必要かということ、女性の団体やグループ等に考えて提案してもらい、それを審査し、県の助成金を交付して事業を展開してもらおうというものです」と事務局の綿引さん。82団体から応募があり、選定された58団体が平成27年7月から28年の1月にかけて様々な取り組みをしています。たとえば、ボランティアサークルによる家庭介護の学習会や、子育てサークルによる赤ちゃんのためのサロン、NPO法人による再就職支援事業など幅広い分野で、女性の視点を生かした活動が展開されています。理事長の池田さんは、「私たちの行っている事業は、それぞれが男女共同参画につながっています。4つの柱を連携させ、人とまちをつなげながら、女性が輝く社会づくりを推進していきたいと考えています」と話していました。

## 事業所の取り組み



### チャレンジストーリー③ 多様な勤務形態で、誰もが働きやすい環境づくり。

働きやすい職場づくりに取り組むアイビークリニックは、結婚・出産・子育てという看護師の女性たちのライフステージに合わせた支援制度を整え、平成26年12月には、県内の医療法人として初めて「くるみん認定」を受けました。さらに人材不足の解消策として、「ひたちなか市内の事業所に夫が勤務していて、ナースの資格を持ちながら働いていない女性たちに、インターネットを活用



医療法人 蔦会 アイビークリニック  
看護部長 廣木とよ子さん(右から3番目)

仕事も子育ても  
頑張っているスタッフと  
共に成長している職場です

して復職を呼びかけました。すると、日勤のみ、夜勤のみならできるといふ非常勤のナースが集まってくれました」と看護部長の廣木さん。そこで多様な勤務形態を取り入れ、常勤と短時間勤務を含めた非常勤の看護師でシフトを組み、人手が必要な時間帯に人材を投入できるようにしました。最初はこのシフトに馴染めずスタッフの理解を得るために、各所属長が参加してワークショップ運営委員会を立ち上げ、働きやすい職場づくりの目的と、具体的取り組みを周知させたそうです。その結果、お互いのシフトを尊重しあえる関係が生まれ、職場が明るい雰囲気になり職員が安定化し離職率が減るといふ大きなメリットが生まれました。現在は法人全体で124名の職員の内37名が非常勤です。「平成27年度ハローモニ功労賞の受賞は、大きな励みになりました。井上宏司院長の目指す、男性も女性も共に社会的役割を果たしている職場であるために、今後も働きやすい職場づくりに取り組んでいきます」と廣木さんはじめスタッフ全員が意欲的です。





(講師)  
株式会社イー・ウーマン  
代表取締役社長 佐々木かをりさん

## 平成27年度ハーモニートップセミナーを開催しました！

県では、活力ある地域社会を構築するため、産業・経済など様々な分野において、女性はその能力を十分に発揮して、社会に参画し活躍できる、女性が輝く社会の実現に向けた取組を進めています。その一環として「男女共同参画推進月間」である昨年11月6日に、茨城県庁9階講堂においてハーモニートップセミナーを開催しました。

このセミナーは、市町村や事業者、団体など各界のリーダーの方々に、女性の活躍推進に対する認識を深め、それぞれの地域や職場においてさらなる推進を図っていただくために開催しているもので、約420名の方々にご参加いただきました。橋本昌知事の主催者あいさつ、志賀秀之県議会議員の来賓あいさつ後、男女共同参画の推進に功績のあった個人、団体、事業所を表彰するハーモニー功労賞表彰式を行い、3名、1団体、4事業所に表彰状が贈呈されました。

続いて、(株)イー・ウーマン代表取締役佐々木かをりさんによる「ダイバーシティが成長のキーワード～女性の活躍が企業を変える」と題した基調講演が行われました。講演の中では、ダイバーシティ(多様性)の意味や目的、企業におけるダイバーシティの推進の重要性などを分かりやすくお話いただきました。また、優良企業事例発表として、ハーモニー功労賞を受賞した「医療法人 蔦会 アイビークリニック」様に、女性が働きやすい職場づくりへの取組みについてお話いただきました。さらに今年度は、初の試みとして女性の海外派遣事業「ハーモニーフライト」参加者による出発報告会を行い、目前に控えたフィンランド研修への思いをお話いただきました。セミナー後には交流会を開催し、約140名の方々のご参加により、分野を超えて意見の交換をしていただきました。



(事例発表) 医療法人 蔦会 アイビークリニック  
看護部長 廣木とよ子さん

## ハーモニーフライト いばらき2015



県では、海外における調査・研修を通して、国際的視野と指導力をもって政策・方針決定過程に参画できる、地域の女性リーダーの育成を目的として、昭和57年度からハーモニーフライト事業を実施しています。

33回目となる今回は、昨年11月15日から20日までの6日間、庄司一子リーダーと13名の研修員が、フィンランドを訪問し、福祉、教育、ブランド化、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランスについて調査・研修を行いました。

研修の成果は、2月13日(土)にレイクエコーで開催される「茨城県女性団体連盟のつどい」の中で報告される予定です。

